

研究データとオープンサイエンスフォーラム
2016年3月17日・国立国会図書館

社会との協働による課題解決型研究と オープンリサーチデータ

Issue-driven transdisciplinary approaches and open research data

近藤 康久

Yasuhisa Kondo



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
Inter-University Research Institute Corporation,
National Institutes for the Humanities Research Institute for Humanity and Nature

自己紹介



- 出身分野は考古学
- 総合地球環境学研究所(地球研) 研究高度化支援センター 情報基盤部門に所属
- GIS・リモートセンシング担当
- オープンサイエンス推進担当
- IR室設置準備担当
- 日本地球惑星科学連合(JpGU) システム改修担当
- http://researchmap.jp/yasuhisa_kondo
- ORCID 0000-0001-7670-4475



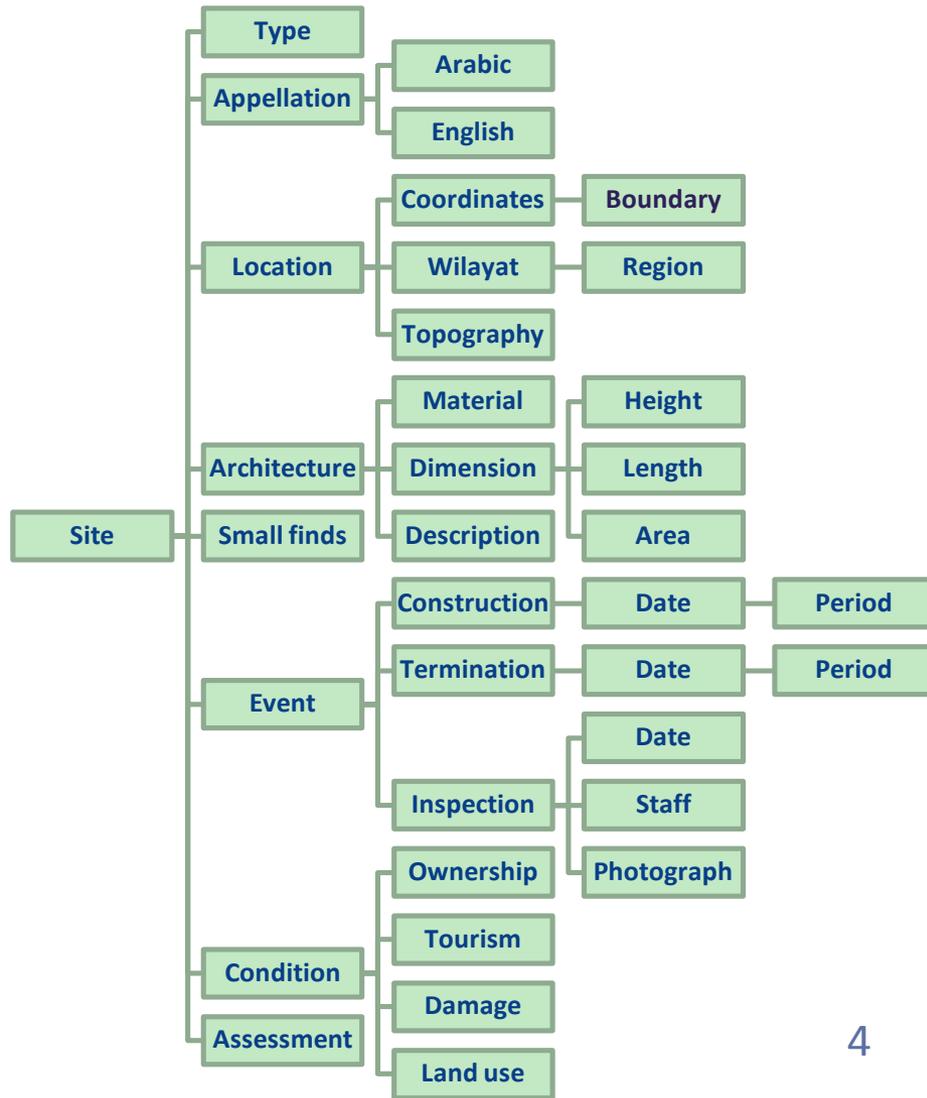
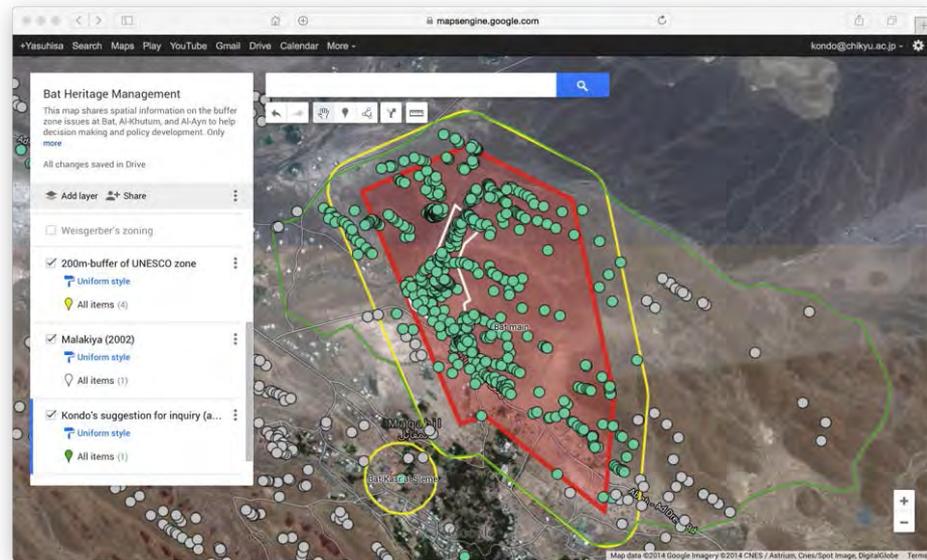


- 文部科学省所管の研究機関。京都市北区上賀茂に所在。
- 地球環境問題を「人と自然の相互作用環」の視点から研究。
- 文理融合型の共同研究プロジェクトを時限付きで推進。
- 社会の多様な課題当事者との協働研究が持ち味。



社会との協働による課題解決型研究

私の研究例：中東オマーンの文化遺産目録構築



Transdisciplinary approach “超学際研究”

地球環境問題などの社会課題を解決するための
政府・自治体・企業・NPO・地域住民など
社会の多様な当事者(利害関係者)との協働による

- 研究の設計 (co-design)
- 知識の生産 (co-production)
- 成果の展開 (co-dissemination)

(Mauser et al. 2013. doi:10.1016/j.cosust.2013.07.001)

- 意思決定を支援する選択肢の提示
(co-leadership) が特に重要



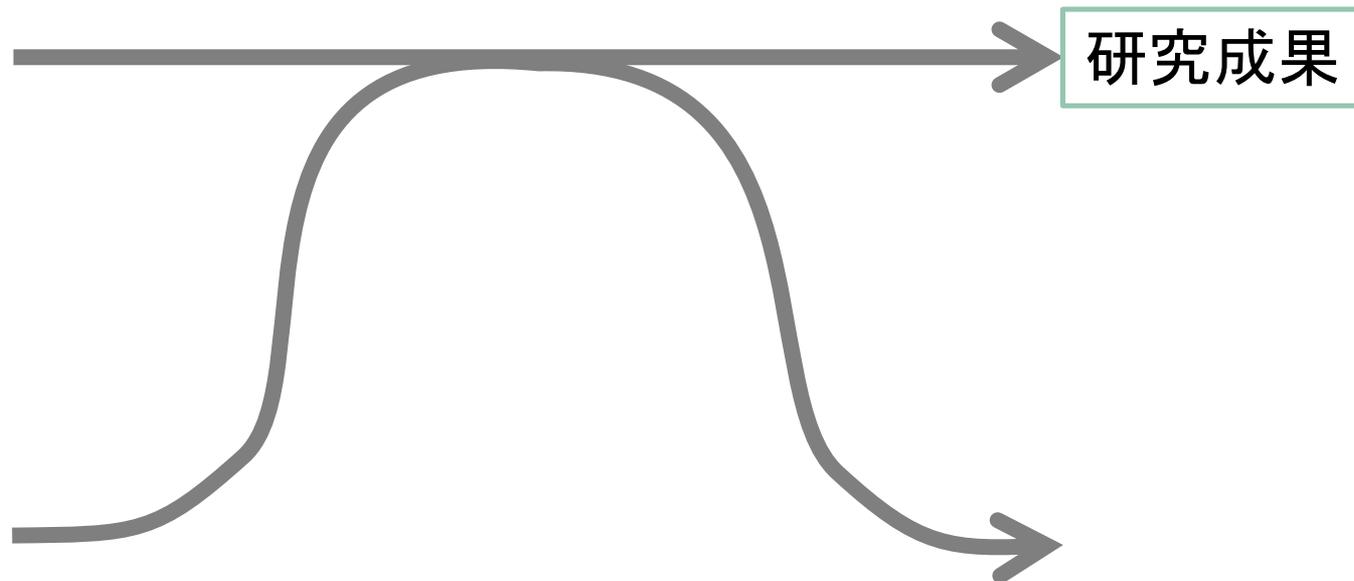
社会協働研究の類型(1) Participatory Research



研究者



課題当事者



例：質問紙調査、アイデアソンなど



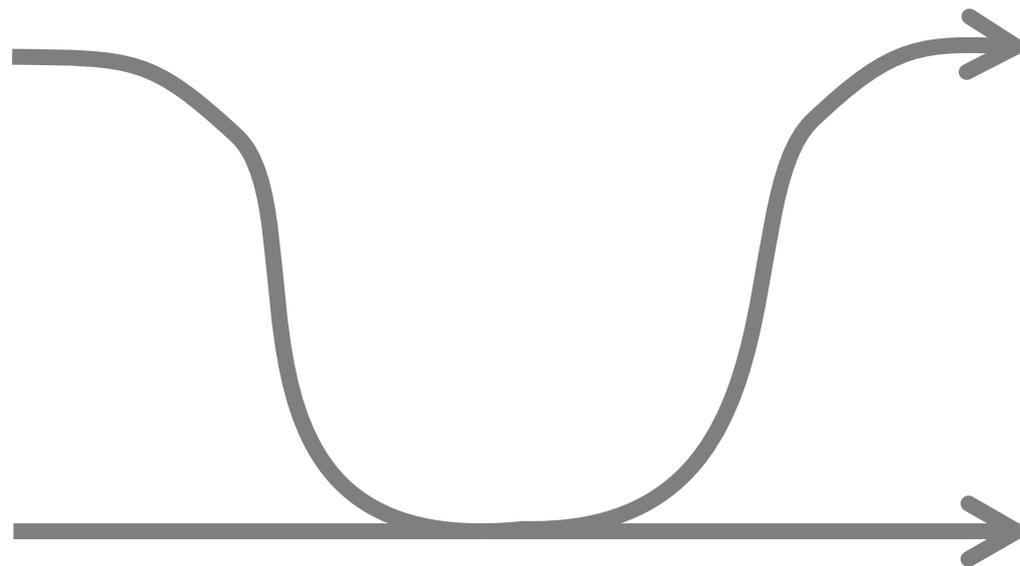
社会協働研究の類型(2) Action Research



研究者

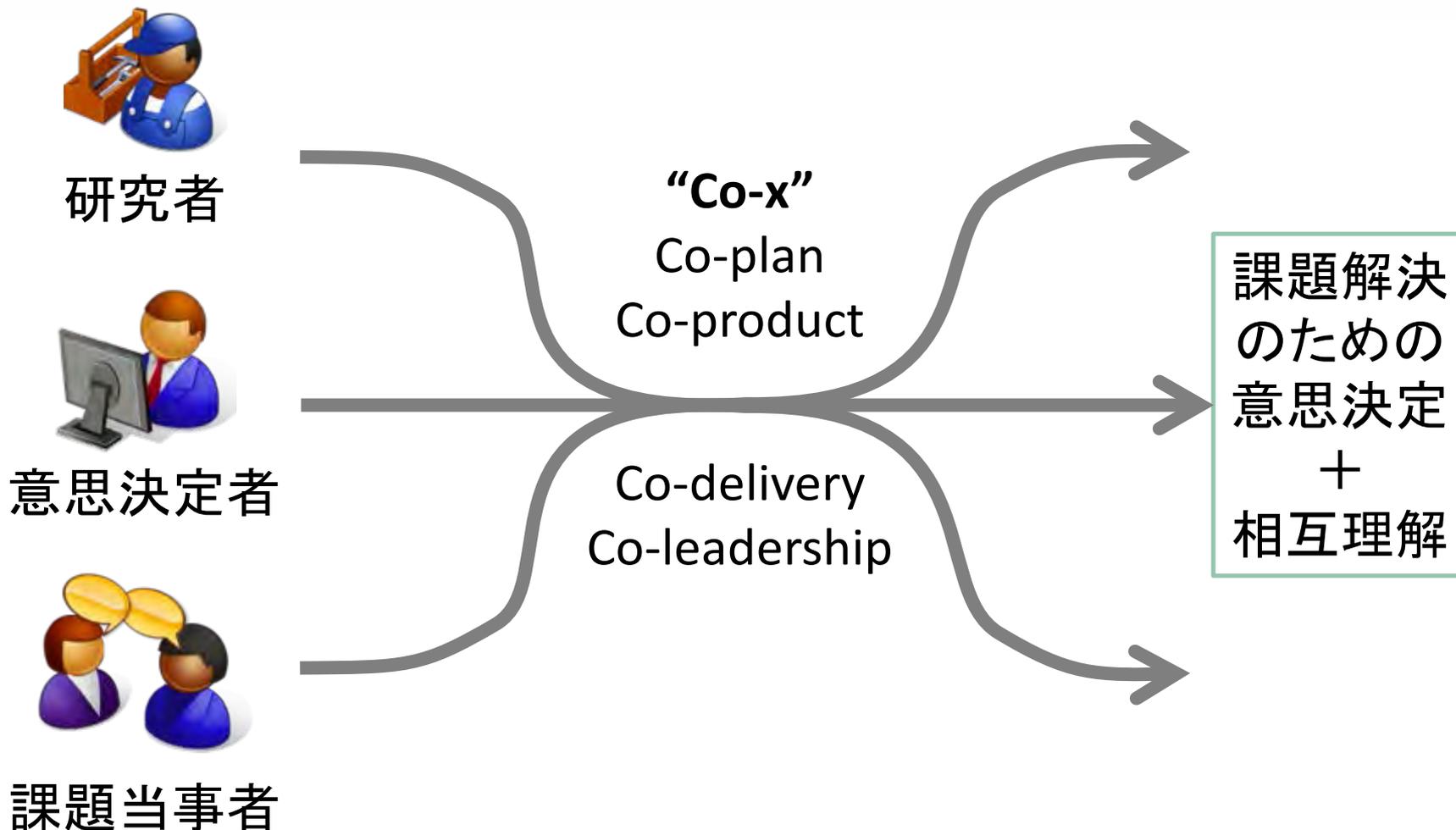


課題当事者



研究成果
(社会実装)

社会協働研究の類型(3) (狭義の) Transdisciplinary Research



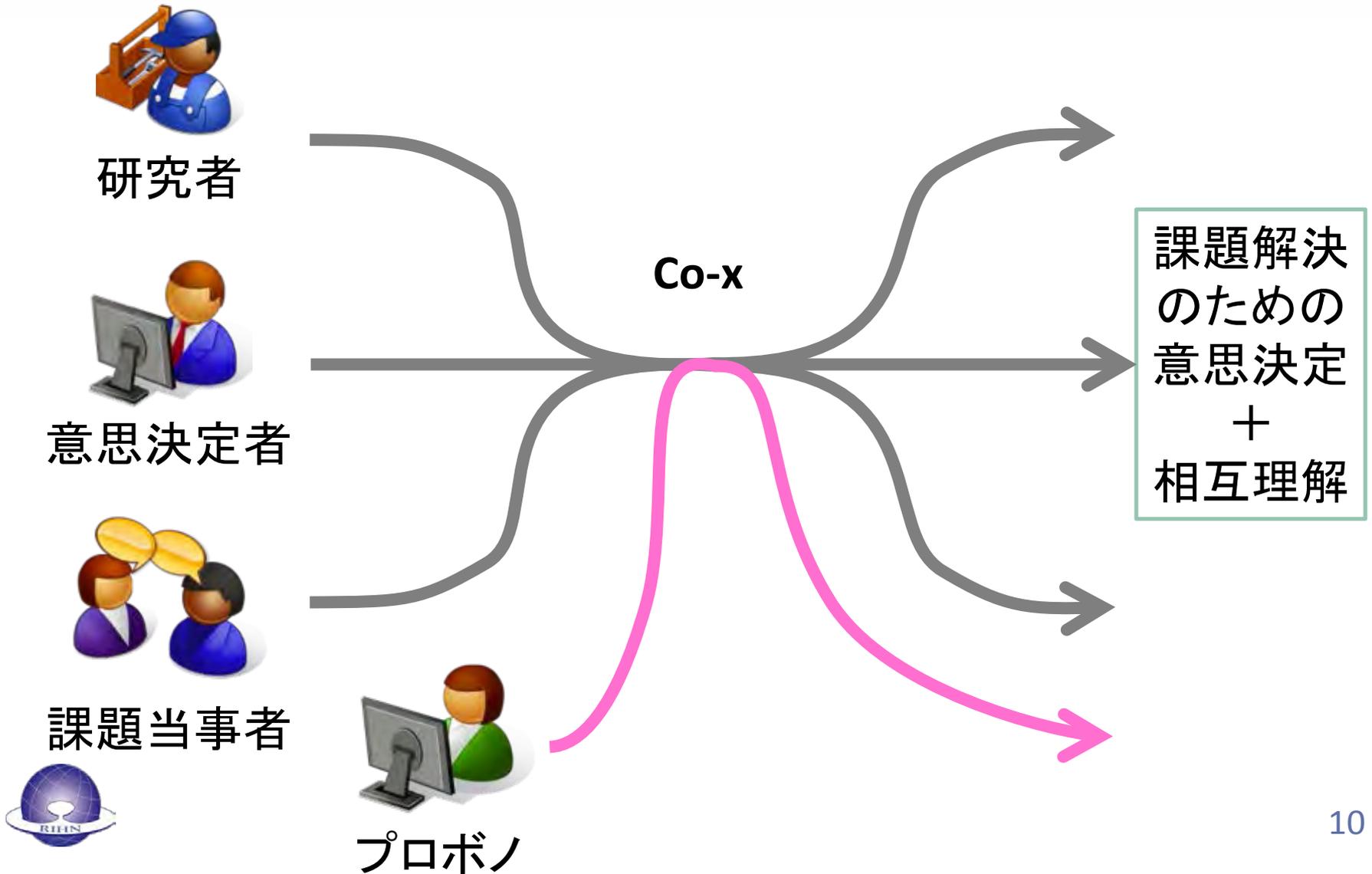
Transdisciplinary approach x Open Science = ?

近未来予想：市民参加型科学（シチズンサイエンス）が社会協働研究との相乗効果により、科学と社会のイノベーションを加速させる。

- 専門的知識・技能をもつ市民がボランティア（プロボノ）として研究に参画し、職業研究者とは異なる立場/視点/意識でデータを収集・分析することにより、職業研究者の思いもよらない研究方法や解釈が生み出される（科学イノベーション）。
- 職業研究者がシチズンサイエンスの成果を取り入れるとともに、より多くの研究者が社会との協働に基づく研究を実践することにより、社会課題の解決に資する研究成果が次々に生み出される（社会イノベーション）。

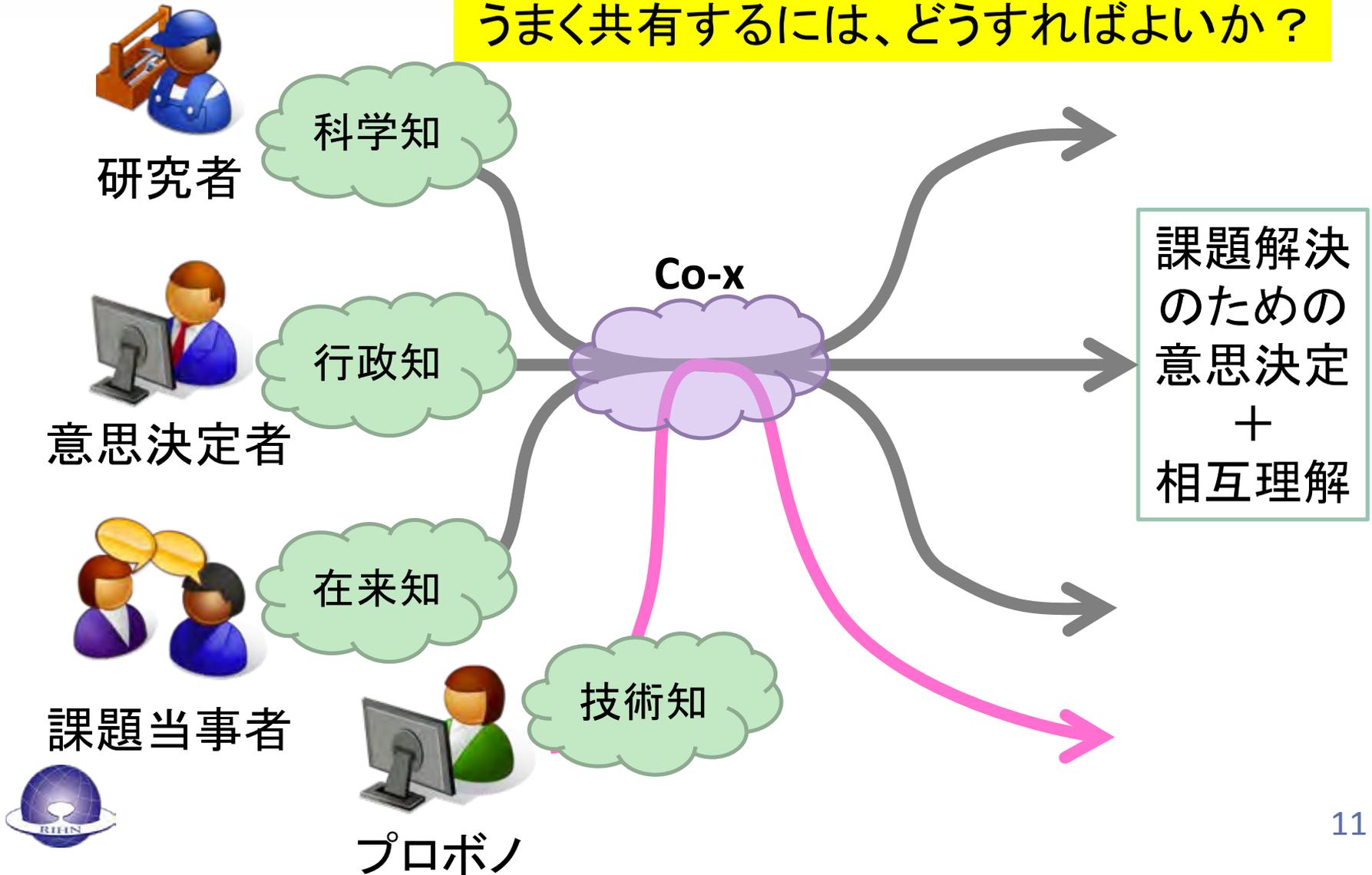


Transdisciplinary approach x Open Science = ?



知識・技術の持ち寄りと融合が鍵

うまく共有するには、どうすればよいか？





社会との協働による課題解決型研究を
サポートするためのデータシェアリングは、
国際的にどこまで進んでいるか？
...という問題意識を持って、RDAに参加しました。

research data sharing without barriers
rd-alliance.org

- IG Certification and practical policies associated with the biodiversity data repositories
- IG Repository platforms for research data
- IG Long Tail of Research Data
 - Transdisciplinarity に言及あり。
- IG Digital Practices in History and Ethnography
- BoF on Research Data Repository Interoperability
- 全体として、(広義の)研究者コミュニティ外部の当事者とのデータ連携は、今後の課題という印象を受けた。

RESEARCH ARTICLE

Open Data in Global Environmental Research: The Belmont Forum's Open Data Survey

Birgit Schmidt^{1*}, Birgit Gemeinholzer², Andrew Treloar³

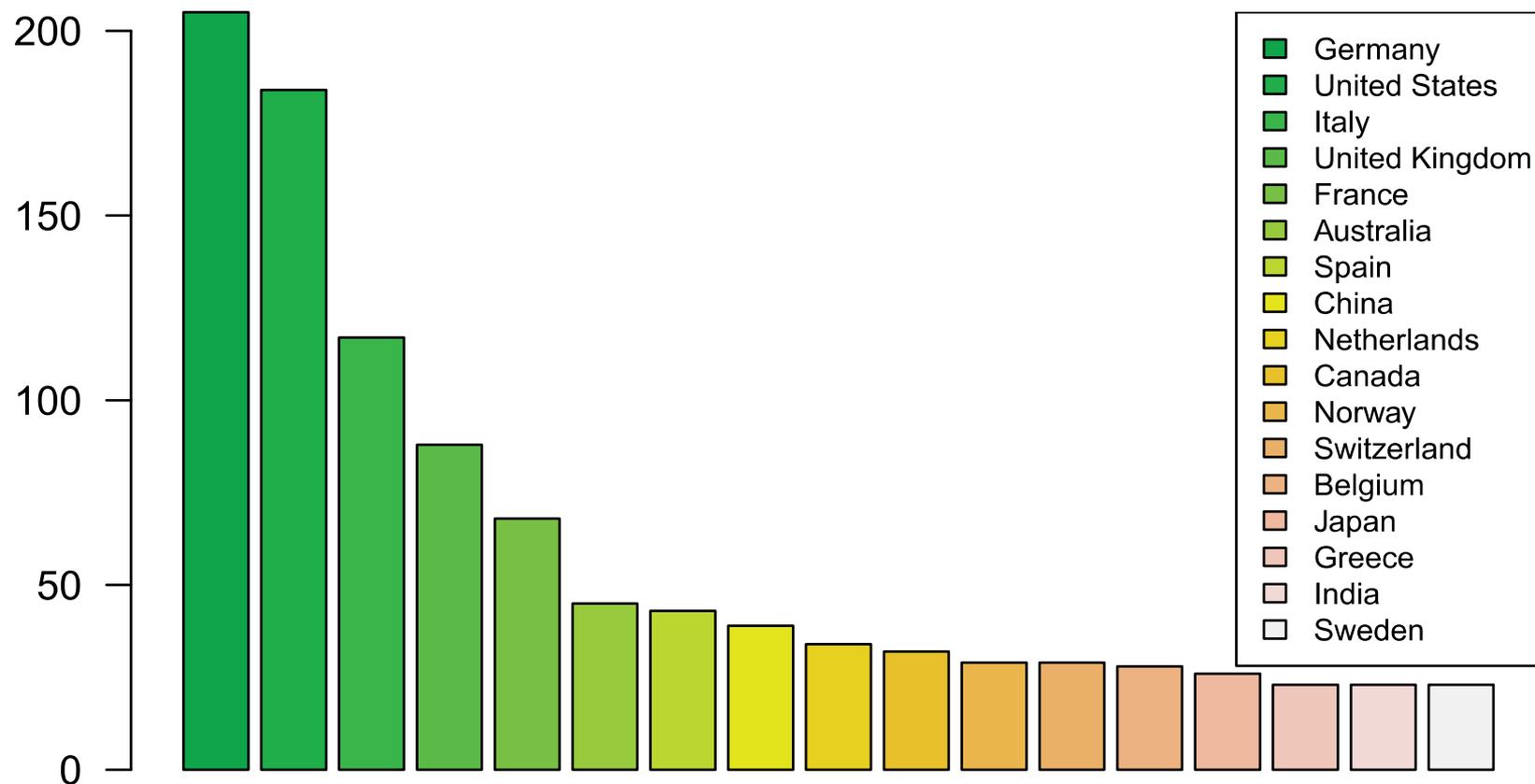
1 State and University Library, University of Göttingen, Göttingen, Germany, **2** Systematic Botany, University of Giessen, Giessen, Germany, **3** Australian National Data Service, Melbourne, Australia

* bschmidt@sub.uni-goettingen.de

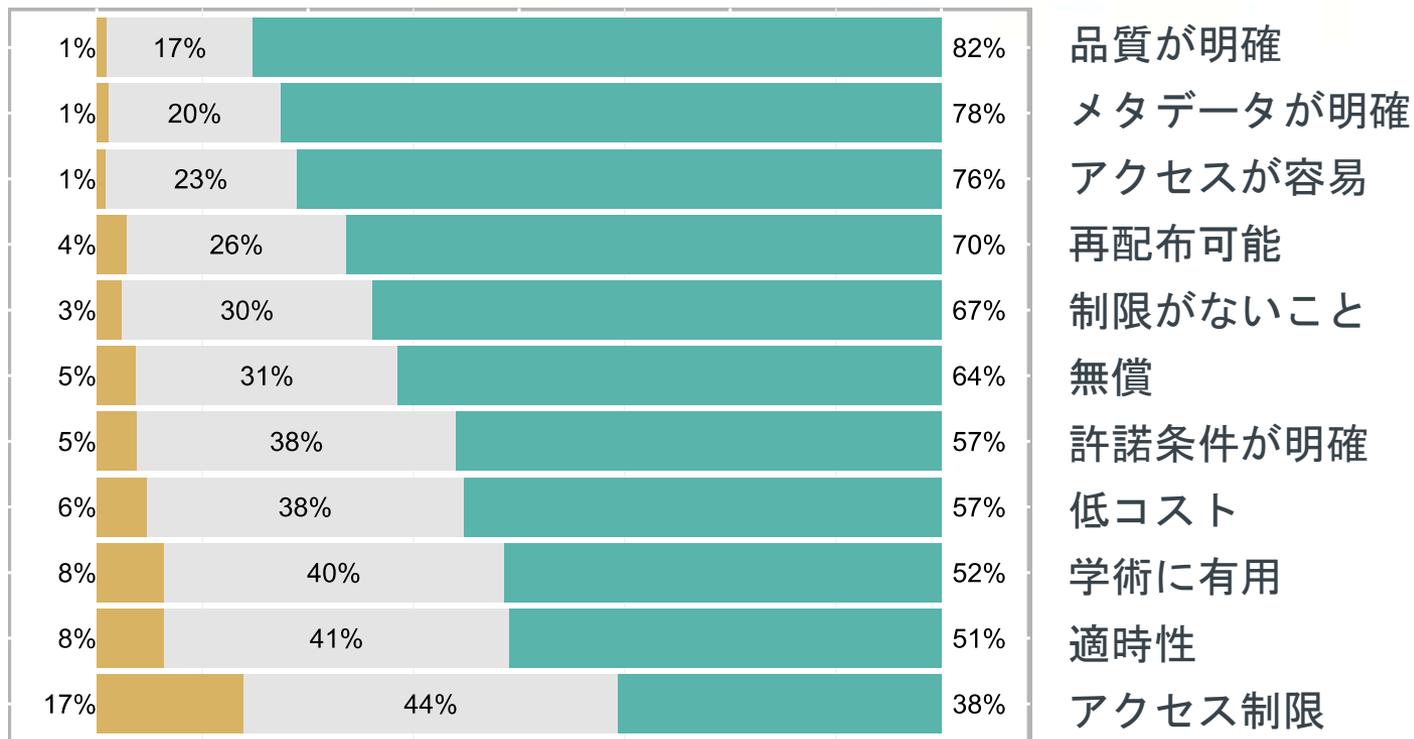
Abstract

This paper presents the findings of the Belmont Forum's survey on Open Data which targeted the global environmental research and data infrastructure community. It highlights users' perceptions of the term "open data", expectations of infrastructure functionalities, and barriers and enablers for the sharing of data. A wide range of good practice examples was pointed out by the respondents which demonstrates a substantial uptake of data sharing through e-infrastructures and a further need for enhancement and consolidation. Among all policy responses, funder policies seem to be the most important motivator. This supports the conclusion that stronger mandates will strengthen the case for data sharing.

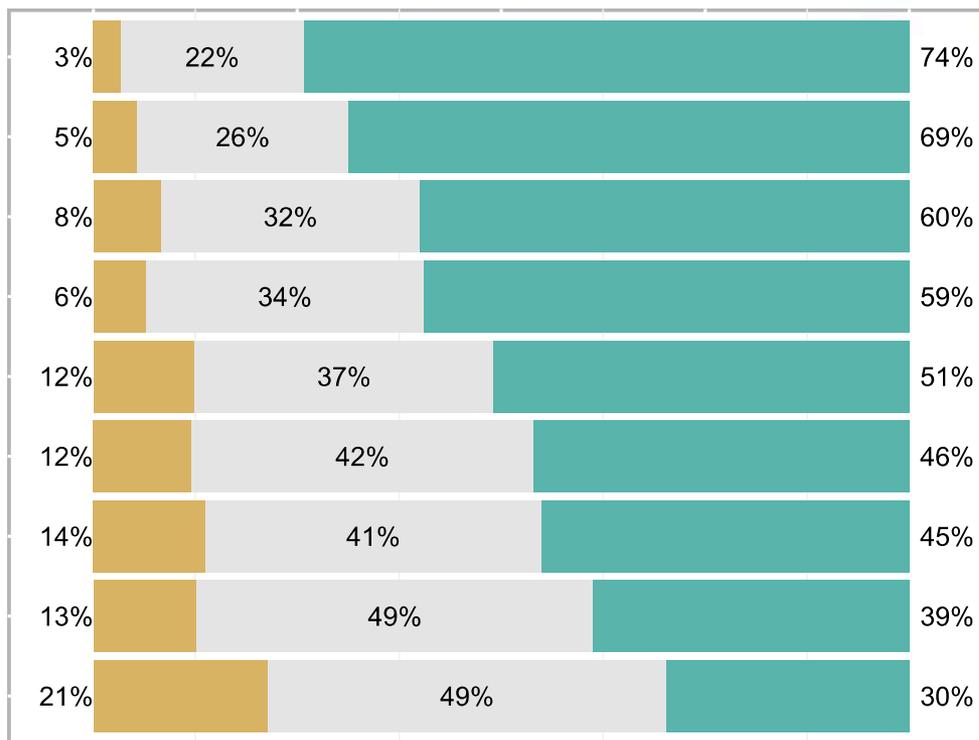
回答者数 1,248人 (うち研究職70%・行政職18%)



オープンデータに重要なのは

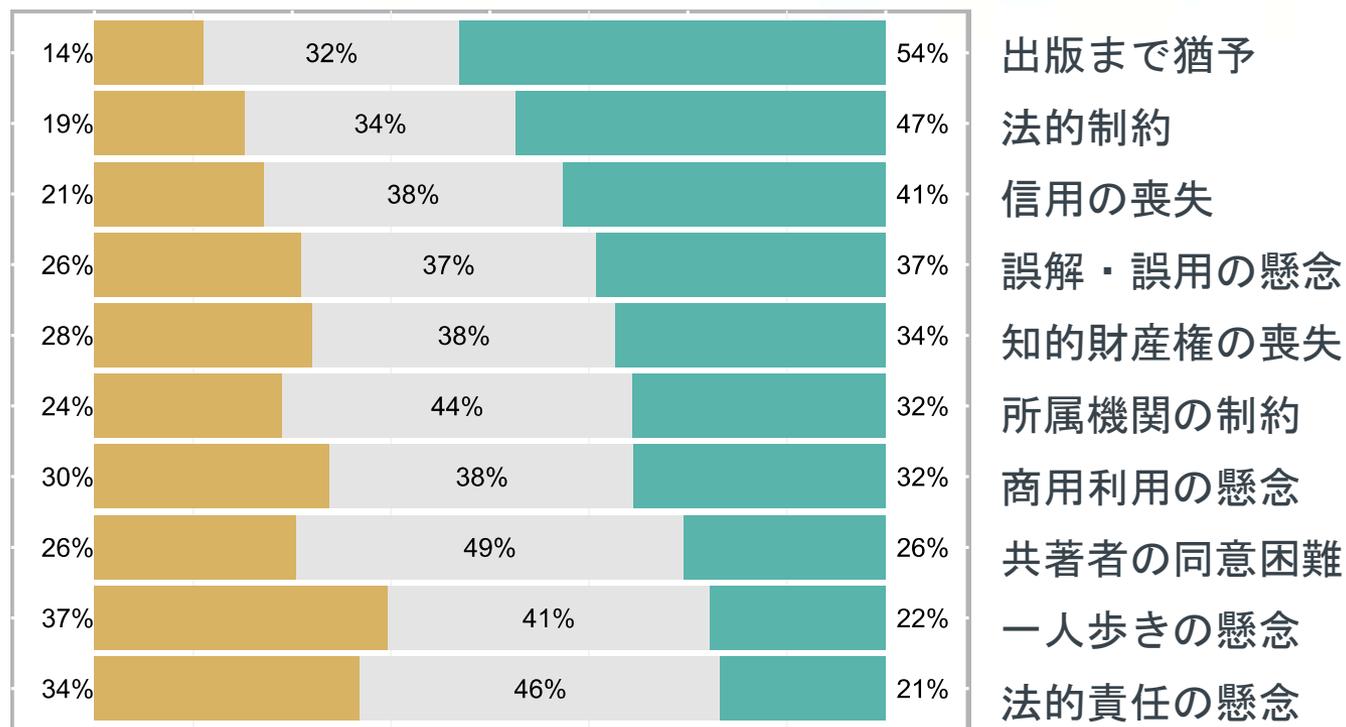


データをオープンにする動機は



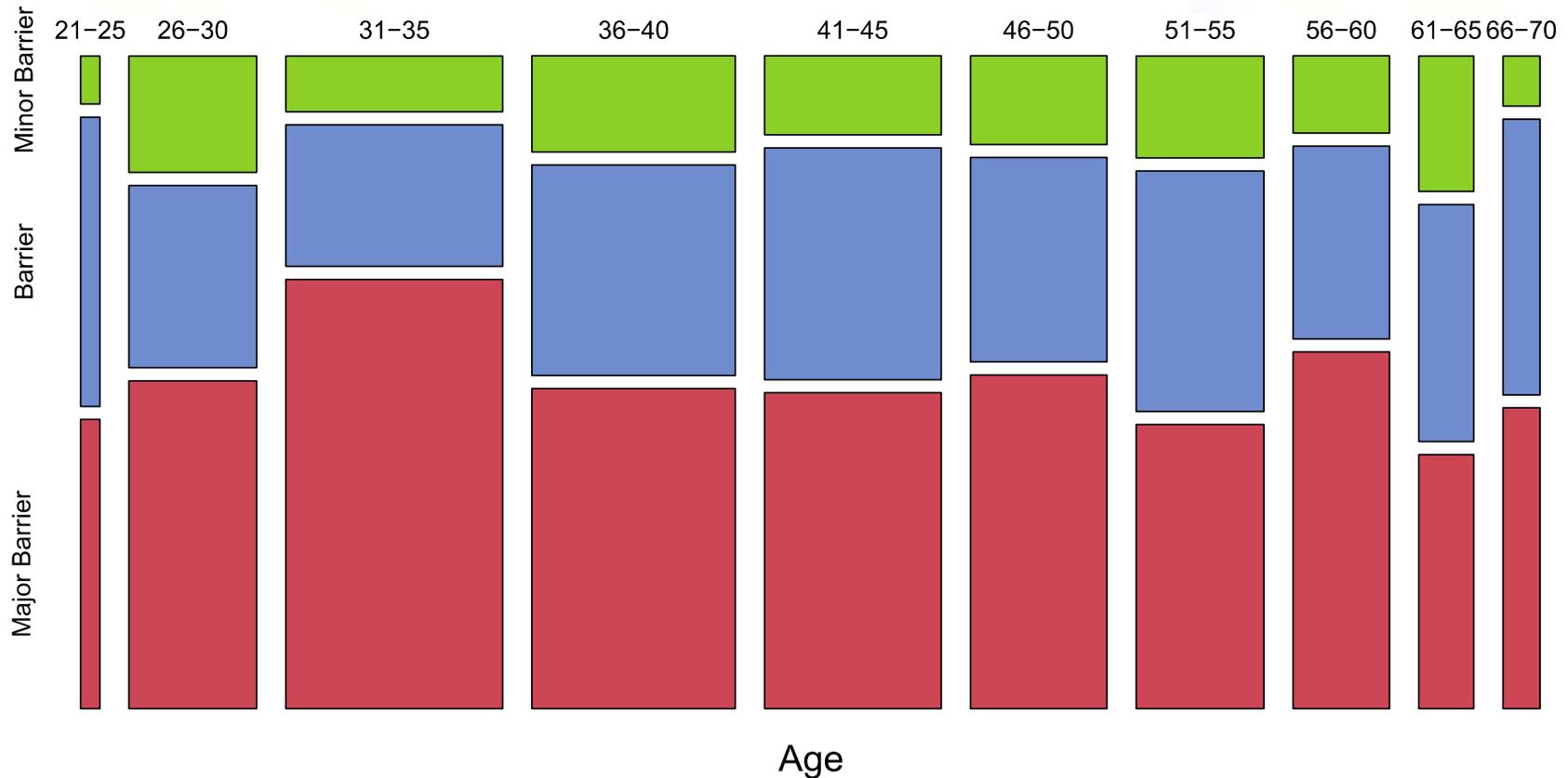
- 研究応用を加速
- 成果をより広く知ってもらいたい
- 個人的貢献意欲
- ユーザリクエスト
- 資金提供者の方針
- 学協会の方針
- 所属機関の方針
- コミュニティの規範
- 出版社の方針

データをオープン化を阻害する要因は



「出版してからデータを公開」に最もこだわるのはポストドク層¹⁹

Desire to publish results before releasing data



- RDA は Knowledge Action Network (KAN)
- (東京開催なのに、、)日本は存在感が薄かった(underrepresented)。
- 仲間の輪に入るには、場数と積極性が必要。
- 「はじめから国際的にやらなきゃダメ」(地球研オープンサイエンス研究計画に対する外部評価委員のコメント)
- 研究者以外の当事者は、オープンリサーチデータをどう認識している？どう取り入れる？
- Comfort zone から飛び出そう！